

- まちづくり (UR都市機構) -

渋谷駅周辺交通対策検討会の取組

1. はじめに

ニュースで人出の話になるとおなじみの渋谷駅周辺エリア（東京都渋谷区）、今そこでは100年に一度と言われる大改造が進められている。この大改造は、東急(株)とURが共同で施行している渋谷駅街区土地区画整理事業をはじめ、道玄坂一丁目再開発、駅南街区事業、国道246号改良、首都高3号線入口新設やJR東日本、東京メトロによる鉄道改良事業など官民一体となって多数の事業が同時に行われてきている。

2. 渋谷駅周辺交通対策検討会

都市再生の工事に際しては、事業者間の調整はもちろん道路管理者や交通管理者、交通事業者との協議が欠かせない。特に渋谷は多数の事業が輻輳しており、さらに大動脈の国道246号や明治通り、世界第2位の乗降客数（330万人以上/日）の渋谷駅を内包しており、交通に極力影響を与えず、官民多数の事業を円滑に進めることが課題であった。それらの調整の場として、平成25年2月に警視庁交通規制課長を座長に道路管理者や事業者、交通事業者が一堂に会する「渋谷駅周辺交通対策検討会」が発足し、その事業者事務局をURと東急が担うこととなった。

検討会では、交通対策の共通ルールを定めるとともに、事業者事務局が中心となり、各事業者から輻輳する工事情報を収集し、総量抑制や搬出入ルート調整、路上待機防止対策等、安全円滑な交通環境の確保と工事の円滑な進捗の両立を図っていった。

第1回開催から現在までの8年間で17回開催し、

幹線道路である国道246号や明治通りの通行止めなどの交通規制、迂回路確保、事前広報など様々な取組を行った。その結果、新型コロナで延期となったが、2020オリパラ東京大会を目標に各事業者が協力し合い、渋谷駅周辺エリアの整備も大きく進めることができた（航空写真参照）。

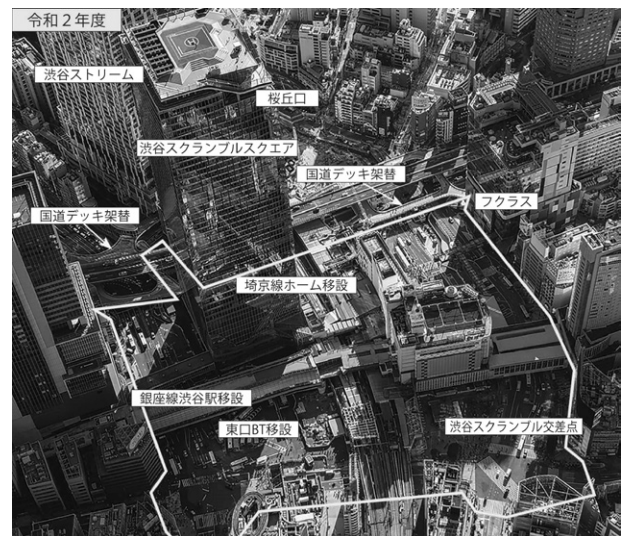
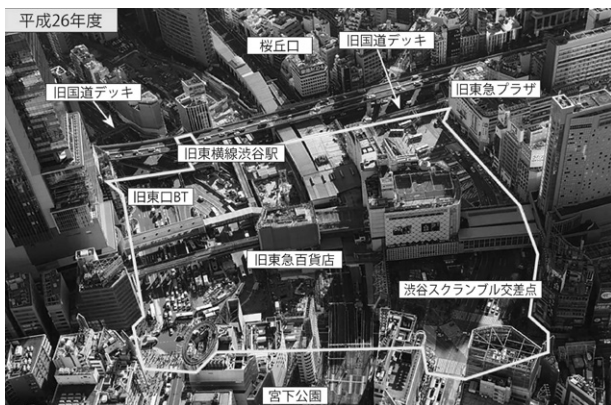
この取組は、警察内でも高く評価され、大規模事業が輻輳する渋谷駅周辺の交通の安全円滑確保に貢献した事業者事務局（UR、東急）の功績に対し、警視庁から感謝状をいただくことができた。

3. 水平展開に向けて

こうした取組の水平展開を目指すため、URでは交通工学の学識者を招いてワーキンググループを設置し、大規模な交通結節点における工事期間中の交通マネジメントに関する調査研究を進めている。令和2年度に開催された交通工学研究会シンポジウムではその内容の一部を発表し、交通対策検討会の必要性や重要性について、情報発信を行った。今後は、渋谷で培った知見などを生かし、他地区でも貢献できればと考えており、今後ともURの取組にご注目いただければ幸いである。

最後に関係者の皆様のご協力に改めてこの場をお借りして心より感謝申し上げます。

独立行政法人都市再生機構 東日本都市再生本部
事業推進業務部 事業推進基盤調整課 大藤 淳一



航空写真 渋谷駅周辺（北側より撮影）の開発状況（囲み線：渋谷駅街区土地区画整理事業概略施行区域）